

遙かなるイマージュを—

時流はどうであれ、様式が何であれ、場がどこであれ、〈個〉としての私が目指すものは、とても手のとどかない高さにあるものと知りつつも、それに近づく為の努力ではなかろうかと思うようになった。その積み重ねだけが私をかり立ててくれるのだ。私の心の内側で求めて止まないものから視線をそらした時、それはもう芸術では無くなる。私は今も芸術はただの飾りではないと固く信じている。それが〈遙かなるイマージュ〉の意味するものなのかなとも思う。

小川原 脩(1988)

時流に翻弄されつつも、「豊かな自閉」と呼称し地方から社会を注視した画家・小川原脩。常に新たな芸術と社会のさまざまな潮流を感じ取り、〈個〉としての自らの創作姿勢を貫いた70年におよぶ画業を辿ります。



唄う男 1933年



造園地帯 1938年



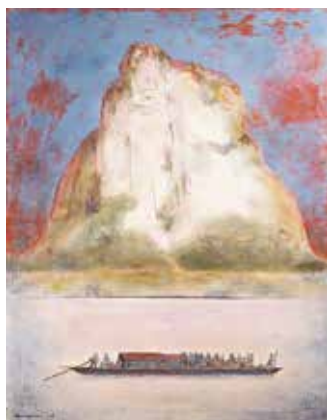
早春 1941年



土のバレエ 1959年



群れ 1977年



渡し舟—漓江 1979年



少年僧 1983年



小川原脩

1911-2002

北海道・倶知安町生まれ。旧制中学(現・倶知安高校)で油彩を始める。東京美術学校(現・東京藝術大学)西洋画科に入学。在学中に「納屋」(1933年)が帝展に入選。卒業後、福沢一郎らと出会い「エコール・ド・東京」「創紀美術協会」「美術文化協会」などの結成に参加。シュルレアリスム絵画への道を歩んだが、軍の規制が厳しくなり断念。その後、

戦後は郷里・倶知安に戻り、岩船修三、木田金次郎らと「全道美術協会(全道展)」の創立に参加。1958年、野本醇、因藤壽、穂井田日出磨らと「麓彩会」を創立。1975年、北海道文化賞受賞。1994年、北海道開発功労賞受賞。この年、小川原脩画集(共同文化社)を出版。

戦後、倶知安町に定住してから半世紀以上、新たな造形の可能性を求め続けたが、とりわけ70歳を目前にして訪れた中国、チベット、インドでの体験を契機として創作の新境地を拓いている。

●同時開催●

小山内無石 書 個展 2024年4月20日(土)～7月7日(日)

ロビー展「北口さつき 5 Elements ～空風火水地」
2024年6月1日(土)～6月30日(日)

しりべしミュージアムロード共同展「紙にまつわるものがたり」
2024年7月13日(土)～9月23日(月・振休)

●会期中のイベント●

マリンバ・コンサート 2024年6月22日(土) 14:00～15:00
入場無料・予約不要・当日先着70席 出演:井原由加子さん(マリンバ)

しりべしミュージアムロード・コンサート「楽譜ものがたり」
2024年7月27日(土) 11:00～11:40 入場無料・予約不要・当日先着70席
出演:ふえふきふたり 立花雅和さん(フルート)、八條美奈子さん(フルート)



小川原脩記念美術館

Shu Ogawara Museum of Art

〒044-0006 北海道虻田郡倶知安町北6条東7丁目1 (0136-21-4141)
<http://www.town.kutchan.hokkaido.jp/culture-sports/ogawara-museum/>